

(3) ザラツキカタカワタケ (ニセショウロ科ニセショウロ属)

期 日：平成23年6月19日

場 所：唐津市虹の松原

(別 名：ショウロダマシ)



この日採集したザラツキカタカワタケが、虹の松原で初めて確認されたということで蒲原さんが一覧表にされた「虹の松原のきのこ一覧」に、No.106として追加していただきました。No.94のホンシメジについて、2つ目になりました。まだまだ未確認

のきのこがたくさんあるかもしれません。これからも、新発見を目指して観察したいです。

本種の特徴は、一般に偽柄がより発達し柄の肉には強い赤変性がある。殻皮がやや薄く、胞子がいくぶん小さく径8.4～11.7 μ m、その表面の針状突起(1～1.5 μ m)も細くて短いです。しかし、写真はこれだけで、長い偽柄があったのか忘れてしまい、胞子観察もしていませんが、長澤栄史先生に写真同定していただいたので、間違いないと思います。今年も観察できたら、長い偽柄の有無と胞子の観察をしようと思います。

ヒメカタショウロに似ているので、下表にまとめてみました。

| ザラツキカタカワタケ | ヒメカタショウロ |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・一般に偽柄がより発達する。・殻皮がやや薄い。・胞子がいくぶん小さく径8.4～11.7μm 表面の針状突起(1～1.5μm)も細くて短い。 | <ul style="list-style-type: none">・殻皮が比較的厚い。・胞子は径10.5～15.0μm程度、表面には著しく長い針状突起(1.5～2.5μm)が密生する。 |
| ※日本産ニセショウロ属で胞子に針状突起があるとされているものに、ウスキノセショウロ、タマネギモドキ、ツブニセショウロがあります。 ※出展：「久留米の自然 109号 2010年7月1日」 | |

このきのこは、ツチグリカタカワタケ(土栗硬皮茸)とともに、最近、名前が訂正されました。過去に、和名がある段階で誤って、“カ”がなくなって、「ザラツキカタワタケ」，「ツチグリカタワタケ」と掲載されました。そこで，“カタワ”は差別用語ということで、それぞれ「ショウロダマシ」，「ツチグリニセショウロ」に変えられ、最近まで使われました。しかし、実際には“カタワ”ではなく、「硬い皮」の「カタカワ」であることが判明し、元に戻されることになりました。日本菌学会会報に、山口の勝本先生が書かれた「ニセショウロ属きのこ2種の正しい和名」という資料に載っているそうです。これまで使われていたツチグリニセショウロやショウロダマシは別名ということにするのが望ましいということです。

以下に整理すると、

(出展：富山きのこクラブ 2007年12月12日ニセショウロ属の和名より)

Scleroderma polyrhizum Pers. ツチグリカタカワタケ

別名：ツチグリニセショウロ

誤名：ツチグリカタワタケ

Scleroderma verrucosum (Bull. : Pers.) Pers. ザラツキカタカワタケ

別名：ショウロダマシ

誤名：ザラツキカタワタケ

ということになります。